

皆満寺通信

第7号

無量光明壽

あらたまの年の初めは祝うとも
南無阿弥陀仏のころわするな
蓮如上人

日頃のご厚情に対し厚く御礼申し上げます。
本年も変わらぬご支援とご教示、ご叱責下さいますよう
お願い申し上げます。

いよいよ御遠忌が始まります

—「宗祖としての親鸞聖人に会う」—

3月19日より、いよいよ宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要が三期にわたって勤まります。

何度も申し上げてきたことですが、50年に一度お勤めするのが御遠忌法要です。50年前は、15日間の法要が勤まり、全国から延べ100万人ものご門徒がお詣りになり、お念仏の声があふれ出ました。

50年を経て、お念仏の声は小さくなったかも知れませんが、現にこうして、御先達から様々なものを相続し、気がつけば、御先達を通してお念仏に遇わせていただいた私がおります。何代も何代も受け継がれてきたお念仏が、親鸞聖人の教えをお伝えいただけてきました。出遇えた喜びを、味わうことができるのが、僕のご真影の前なのだと思います。

あの場の力なのでしょうかね。今っぽく言えば、間違いなくパワースポットです。あの場所には、不思議と染み入るものがあります。真宗門徒にとってあれ以上の場所はないんじゃないでしょうか？

お寺からも、5月25日（水）にバスでの団体参拝をいたしますが、御遠忌期間は3ヶ月間と長いので今一度日程をお確かめいただき、ご本山へ、御遠忌にお詣りいただきたいと願っております。

帰敬式を愛竹まじょう

「私は真宗門徒です」

昨年5月、宗祖御遠忌大会の際「帰敬式」が執り行われました。当寺からも38名のご門徒方が受式され、晴れて真宗門徒の名告りをされました。

真実の拠りどころに出遇って、第二の誕生を迎えるのが帰敬式です。おかみそりと云われ、伝統されてきました。人としての生き方を仏さまの教えに問い学んでいこう、真の宗に帰依していこうとする儀式で、その際に法名を頂きます。実際に髪を剃ることはいたしません。

法名は、教えを戴き、仏法を聞いてまいりますというお釈迦さまの弟子としての名告りであり、仏さまから願いをかけられた尊いお名前です。法名は、住職と相談して自分の望む法名を選び、受けることができます。

「帰敬式」を受けるには

まずはお寺へご連絡下さい。

帰敬式は真宗本廟（本山 東本願寺）でお受けするのが本来ですが、ご門首や鍵役が出向される別院等でも受式が可能です。何れも予めお申し込みが必要ですが、お出かけたいただければいつでも受けられます。だからといってご自由にどうぞ・・・というわけにはまいりません。手次の住職としては、所属寺のご門徒が受式頂くのであれば、出来る限り、その場で見届けたいものです。

これまで、なかなか叶いませんでしたが、出来れば毎年、希望者を募ってご本山への収骨や奉仕研修などに上山し、その折に受式して頂けるように働きかけていこうと思っています。ぜひ、そのような機会を設けるよう努めてまいりますので、お寺までお問い合わせ下さいますようお願いいたします。

なお、規則上は、当寺でも住職による執行は可能ですが、出来る限りご本山へ上山しての執行を勧めていきたいと思っています。

「受式礼金」は、10,000円で、本山へ納めます。名古屋別院の場合は、独自の記念品を含むため、20,000円となります。

真の宗とは

浄土真宗というのは、宗派の名称、総称でもありますが、本来の意味は、「まこと」「むね」と親鸞聖人が仰るように、本当の依り所という意味で、浄土の真を宗として生きようという宗祖の自らの姿勢を言い表された言葉です。

正信偈に「本師源空明仏教」とあるように、法然上人が明らかにして下さった仏教の本質は、浄土（いのちがつながりあって、いきいきと響きあい、生かしあう世界）

を依り処として生きることなのだ、**「深籍本願興真宗」**（文類偈）と、善導大師の明かされた**「本願を信じ念仏を申しなさい」**という教えの中にその道を訪ねてゆくのだと、宗祖は私たちに呼びかけて下さっているように思えます。

宗祖がお亡くなりになって750年目の今年は、いよいよその呼びかけに出遇っていきたいものです。

昨年度の行事等のご報告

皆満寺の催し

春季彼岸会法要

お中日の午後に「彼岸会法要」をお勤め致しました。前任職が法話を担当。意外なほど？評判が良く、今後もと意気込んでおります。

誕生児初まいり

去る4月17日に「誕生児初まいり」を行いました。



ようやくこぎつけた試行錯誤の第1回となりましたが、ご参加頂いた親御さんからはこの催しを大変喜んで戴きました。感謝。

永代経法要

「永代経法要」を6月12日にお勤め致しました。



法話は私の先輩住職、半田市の雲澤寺住職竜沢悟師でした。仏法聴聞ということをやモアを交えながらお話し頂きました。まさか、アンパンマンの歌詞が引用されるとは……。サスガです。

ご参詣の方々が少なかったことが残念でした。永代経は、亡き方から「私」に懸けられた尊い願いに真向う機縁です。お寺に任せっ放しではいけません。

永代経と、永代供養との違いはそこにありますよ。

盂蘭盆会法要

「盂蘭盆会法要」を8月13日から15日の午前中に三日間お勤め致しました。3日間で400名程の方々にご参詣いただきました。初日は200人近かったように思います。浜縁まで人で溢れてのお参りでした。



法話は3日間とも前任職が務め、元気な姿を見せることが出来て本人もホッとしております。

15日は全戦没者追弔法要を兼ねて勤めました。皆さん、戦没者のお参りやから、戦没者の遺族以外は行っては駄目だと思っておられる方が多いのに驚きました。兼ねてるだけですし、平和祈念という意味合いの強い法座にしたいと思っていますので、15日にもっと多くのお参りを頂けるようにしないとイケません。新たな課題を頂きました。

しかし、暑かったですね。暑いなんて言っておられない・・・と思った途端、暑い 暑い・・・と言う自分がありました。

秋季彼岸会法要と納骨総経

当初はお中日に彼岸会法要、中1日で納骨総経という計画でしたが、無理のある日程だと判断し、一日に纏めて9月25日（土）に両法要を併せて執り行いました。

春と盂蘭盆会に引き続き、前任職が法話を担当。春先からの約束を果たせたと安堵しておりました。本人は、ノリノリなので、しばらく勤めて頂こうかと検討中です。

報恩講

真宗門徒の一年は、報恩講に始まり、報恩講で終わると言われます。親鸞聖人の言葉に深い感動を持って、新たな歩みを始め、その年の歩みを振り返っていくことが、綿々と受け継がれてきたのでしょ。

「宗祖としての親鸞聖人に会う」報恩講を、多数の皆さま方にお詣り頂き、懇ろな志に支えられて無事に円成することができましたことを厚く御礼申し上げます。

年間最重要な報恩講がどのように勤まるかで寺とご門徒の在り方が問われます。今後も皆さま方に「お詣りしてよかった」と心から願って頂けるような「報恩講」を執り行うように努めてまいります。お勤めにもできる限り加わることができるような工夫を重ねて、僧俗一体でお勤めする「報恩講」にしていきたいと思います。

第2組の催し

宗祖御遠忌大会

5月29日(土)に半田市福祉文化会館、雁宿ホールで宗祖御遠忌大会を執り行われました。



ご本山より鍵役、信教院殿をお招きしてお持ち受け法要をお勤めして、「帰敬式」を執行し、100名を越えるご門徒がお剃刀を受け、「法名」を受けられました。



その後の「宗祖聖人御誕生会」では、田ロランディ氏が「うつこの時代、死ななないで生きるために」という講題で記念講話をされました。

例年以上に全組を挙げての取り組みでしたが、参加者の増という結果が現れなかったのが非常に残念でした。

サマースクール いのちきらきら



第2組の「青少年教化」事業の一環として、8月23日から8月24日まで時志の広徳寺(名古屋別院支院)を会場にサマースクールが開催されました。



小・中学生併せて約40名が参加、サマースクールのOB、OGもスタッフとして手伝ってくれています。

飯ごう炊飯をしてカレーを作ったり、キャンプファイヤーをしたり、竹笛を作ったりして、とにかく目一杯遊びました。とはいえそこは、お寺のサマースクールです。お勤めの稽古、朝夕のお勤め、仏さまの話を聞くといったことは欠かせません。食事もあることの意味、残すことが何故いけないか?さりげなく伝えます。



スタッフ作の朝食 僕も作りました

大自然を満喫しながら楽しく有意義な時を過ごしました。

御正当報恩講参拝

今年(平成23年)の本山の報恩講は、当に宗祖聖人の750回忌の御正当となりますので、11月にはご本山の報恩講へのバス団参を企画しています。詳細は未定ですが、改めてご案内致しますので、ぜひご参加下さい。

鐘楼堂基礎工事のお知らせ

2月初旬より、鐘楼堂の安全確保のため基礎工事を行います。鐘楼を下へ降ろしての大工事ですが、お彼岸の頃には終わる予定です。お寺へお越しの際は、危険防止に十分なご配慮をお願いします。なお、南の門からの入寺はできなくなります。

お勤めのお稽古

1月より、御遠忌団参の時に同朋唱和でお勤めをする正信偈・和讃の稽古をまいります。このお勤めは、宗派伝統のお勤めの基本となるものですので、バス団参をされない方々も、ぜひ、ご参加頂きたいと思っております。

大谷派のお勤めは聞くお勤めです。その為に一生懸命に声を出してお勤めします。「声を出して耳へ届ける」このことを大事にして頂きたいと思います。

なお、このお勤めの稽古は、9月以降は当寺の報恩講に備えてのお勤めの稽古となる予定です。

詳しくは年間予定表をご覧ください。

花祭りと初まいり

4月2日(土) 午前10時より

「生まれてくれて、ありがとう」

今年も昨年に引き続き、誕生児初まいりを行います。

50年前の宗祖700回御遠忌以降、ご本山には、「生まれた意味と生きる喜びをみつけよう」というスローガンが掲げられています。親鸞聖人の浄土真宗の歴史は一貫してこのテーマが受け継がれてきました。「誕生」こそが、主題といっても良いのかもしれませんが。

今年からは、お釈迦様のお誕生祝いの花祭り、親鸞聖人の誕生日をご縁にお勤める御誕生会を兼ねてお勤めいたします。

日頃のご法事の席などでお声掛けさせていただきますが、ご身内やご縁のある方へお知らせ頂ければ幸いです。

お申込み用紙はお寺にございますが、HP上からダウンロードして頂くことができますので、ご活用下さい。

初まいりは、お宮さんばかりではありませんよ。

彼岸会法要

3月21日(月) 午前10時

お墓参りだけでなくお寺へお詣り下さい

暑さ寒さも彼岸まで？

お彼岸の頃になると、暑さ寒さのせいにして遠ざけてきたことを、暑さ寒さのせいには出来なくなります。しかし、春のお彼岸は、すぐそこまで迫った桜の季節が待ち遠しい、そんな頃でもあります。

そんな頃だからこそ、繋がっていたいのに繋がれないところ(此岸)から、繋がりがあって、いきいきと響きあい、生かしあう世界(彼岸=浄土)を願うお佛事として伝統されてきたのでしょうか。

忙しい(忙というのは心が亡いということ、自分を見失っていること)と云って後回しにしてきた「我が身を見つめる」ことを回復し、かけつけて下さっている仏さまや亡き方々の願いに目覚めるご縁が「お彼岸」です。

本山収骨について

「須彌壇収骨」が「真宗本廟収骨」と改められました
ご本山へのお収骨もお忘れ無く

お寺には、先のご修復事業の一環として整備された納骨室が本堂裏にございます。お墓代わりにといいニーズにこたえるものではありませんが、特典としてのお納骨以外にも、新たにお納骨というご縁を頂戴しております。

新たに本堂にてご聴聞頂くご門徒を得ていることは有り難いことですが、ご本山へのお収骨の意識が薄れてきたことは誠に遺憾であります。

もともと盛んだったとは言い難いですが、今一度、宗祖のご真影の元へ、真宗門徒として集うことの意味を見つめ直して参りたいと考えます。また、幾代にもわたり私達のご先達が護持してこられたご本山です。その願いに触れていくことも、御収骨の持つ大切な意味であるといえます。

あとがき

私事ですが、さる11月、第2組臨時組会において、囃らずも副組長に選出されました。若輩でありその器でないことは充分承知しておりますが、与えられた使命を全うするように努めてまいります。多忙な上に「超」が付きそうな日々になることは覚悟しておりますが、ご門徒の皆さま方にかなりのご迷惑をお掛けするのではないかと案じております。どうか、任期満了(2014年3月31日)まで格別のご理解とお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

さて、この通信も相変わらずの出来具合で汗顔の至りですが、お目こぼし頂ければ幸いです。

また、各種問い合わせは下記メールにて受け付けていますので、ご活用いただきますようお願いいたします。

合掌

皆満寺通信 第7号

2011年1月 発行

真宗大谷派 皆満寺

TEL 0569-72-0435/FAX 0569-72-0740

URL <http://www.kaimanji.or.jp>

Mail postmaster@kaimanji.or.jp